

奄美市最上位計画（仮称）骨子

奄美市総務部企画調整課

1. 本市最上位計画構成案

I	はじめに	1
II	本計画策定の背景と構成	1
1.	本計画策定の背景	1
(1)	本計画策定の背景	1
(2)	本計画の基本的な位置づけ	1
2.	構成と期間	1
(1)	本計画の構成	1
(2)	計画の期間	1
III	長期的な政策の方向（15年後を見据えて）	2
1.	奄美市の特徴	2
(1)	実感できる「人とのつながり」	2
(2)	受け継がれてきた「自然と文化、歴史」	2
(3)	都市と集落が生み出す「まちの多様性」	2
2.	奄美市が抱える課題	3
(1)	「暮らし」	3
(2)	「しごと」	3
(3)	「つながり」	3
3.	長期的な政策の方向	4
(1)	本市が目指す将来像（次世代に受け継ぎたい本市の姿）	4
(2)	長期的な政策の方向	4
①	市民の生活満足度の向上	4
②	活発な市民活動・経済活動	4
③	次世代への「誇り」の継承	5
(3)	長期的な取組を図る指標（全体指標）	5
IV	短中期的な重点施策の方向	5

I はじめに

II. 本計画策定の背景と構成

1. 本計画策定の背景

(1) 本計画策定の背景

- ・奄美市では平成 22 年 3 月に、平成 23 年度から平成 32 年度（令和 2 年度）を計画期間とした『奄美市総合計画』を策定。
- ・市町村における総合計画の策定については、平成 23 年の地方自治法改正により従来の義務化が撤廃されたものの、全国的に自治体の方向性を示すものとして任意での計画策定が進められている。
- ・本市においても、前計画期間終了後の新たな計画のあり方について議論をしてきたものの、新型コロナウイルス感染症の大きな社会的影響を考慮し、策定作業を中断。
- ・本市が有する 70 の個別計画の最上位となる計画を策定し、本市が取り組むべき政策の方向性を示すこととする。

(2) 本計画の基本的な位置づけ

- ・本計画は、単に行政が取り組むべき政策の方向性を示すものではなく、市民・企業・団体等、奄美市に関係する人々が一丸となって、本市の課題の解決及び持続的発展に取り組むための計画である。

2. 構成と期間

(1) 本計画の構成

- ・本計画は 15 年後を見据えて、現在本市が有している魅力を基に、地域課題を示す「長期的な政策の方向」と、概ね 4 年間程度で集中的に取り組むべき政策を示す「短中期的な政策の方向」の 2 つの構成とする。

また、短中期的な政策の方向を踏まえ、毎年度の事業効果等の検証を行いながら、実施計画の更新は継続する。

(2) 計画の期間

- ・本計画は概ね 15 年後を見据えたものであるとともに、「短中期的な政策の方向」も含め、概ね 4 年ごとの見直しを行うものとする。ただし、新型コロナウイルス等、予期せぬ社会情勢を受けては、期間にとらわれず柔軟な見直しを行う。

Ⅲ 長期的な政策の方向（15年後を見据えて）

1. 奄美市の特徴

本市の特徴をなす魅力は、それぞれに独立したものではなく、調和をしながら形作られているもの。また、これらの魅力は何もしなくても残っていくものではなく、市民が一丸となって大切に守っていく努力をしなければならぬもの。

（1）実感できる「人とのつながり」

- ・何気なく交わされる朝のあいさつや、地域のみんなが子どもを見守ってくれている環境など、奄美市には「人とのつながり」を実感する機会がまだ多く残っている。
- ・地域活動だけでなく、趣味・スポーツ活動を通じた人とのつながり、同年代を中心とした人とのつながりなど多様な関係性が構築されている。
- ・本市に受け継がれてきた「結いの精神」は、言い換えれば「お互い様」の支え合いの精神であり、「水や山ぬおかげ 人や世間おかげ」の教訓に代表されるように、社会の中で一人ひとりが役割を果たしてきた精神性であるといえる。

（2）受け継がれてきた「自然と文化、歴史」

- ・世界自然遺産に登録され、世界の宝に認められた本市の自然環境は、後世に亘って長く引き継ぐべき宝。
- ・現在に連綿と繋がる島の歴史や、自然とともに生活する環境の中で引き継がれてきた文化（「シマグチ（シマユムタ）」や「シマ唄」、「八月踊り」、「シマジユウリ」）は、他の地域と本市の違いを表す本市独特の個性であり、それらは、親から子へ、子から孫へ、世代を超えて受け継がれてきたもの。
- ・「SDGs」が求められている現代にあって、本市が受け継いできた「自然と文化、歴史」の素晴らしさ、それらへの向き合い方も含めて、自然と人、文化と人のつながりを見直すことが、「ナチュラルSDGsの島¹」としての本市のありのままの魅力を受け継いでいくことに繋がる。

（3）都市と集落が生み出す「まちの多様性」

- ・コンパクトシティを形成してきた名瀬市街地部と、地域文化が色濃く残る旧三方地区や住用、笠利の集落が、相互に魅力を補完しながら、それぞれに役割を担っていることは本市にとっての魅力。
- ・生活する地域が、山・川・海といった豊かな自然に囲まれている、または近接していることは住環境として魅力であるほか、温暖な気候やスギ花粉の飛散がないことなども特徴。
- ・私たちが暮らす奄美市には、体験や自然、文化を楽しむための魅力にあふれていますが、まだまだ引き出すことができていない魅力の伸びしろがあると評価。

1 「ナチュラルSDGsの島」：分科会で出された委員による造語。しまに根付く自然を敬う考え方や生き方、結いの精神に代表される相互助け合いの精神は「まるでSDGsそのもの」ではないか、との思いが込められている。

2. 奄美市が抱える課題

全国的にも深刻な問題とされる「人口減少」は、本市にとっても最も重要な問題です。

ただし、「人口減少」は単にひとつの問題であるわけではありません。例えば、「地域産業の不振」→「賃金の伸び悩み」→「結婚・子育てへの不安」→「出生数の減少（＝少子化）」→「市場の縮小」→「経済の低迷」→「人口流出」→「人材不足」のように。

「人口減少」は全国的な現象であるが、これを改善又は軽減するためには、それぞれの問題が連動しているものと理解し、総合的に取り組んでいくことが求められる。

(1) 「暮らし」

- ・集落地域では「住まい不足」により新居を求める住民はもとより、新たな移住者の確保を困難にしていることに加え、名瀬市街地部も含めて市内全域において「住まい不足」が家賃相場の高騰に繋がっている。
- ・スマートフォンの普及によるネット環境や三世代同居の減少など、時代の変化が新たな価値観を生み出しており、子どもと保護者がともに親しむ“遊び”の環境など、様々なサービスニーズへの柔軟な対応が求められている。
- ・集落商店の減少や交通手段の縮減は、高齢者の外出機会抑制や生活圏域の縮小などに結びつくリスクをはらんでいる。

(2) 「しごと」

- ・給与環境の改善・向上のために、国内外からの外貨獲得や人を呼び込みに向けた多様な情報発信の充実に加え、各産業における高付加価値化の取組が課題。
- ・深刻化する人材不足の改善のために、事業者自身による就労環境の向上や積極的な求人活動に加え、住宅確保など地域全体で取り組むべき課題については、民間、行政など多様な主体による連携が求められている。
- ・多様な働き方の実現のために、地域として起業・創業を後押しする空気感の醸成が求められている。

(3) 「つながり」

- ・集落活動の衰退は、世代を超えた住民間のつながりの希薄化を招く。そのため、本市の文化・伝統を受け継いでいくための対策として集落の維持・活性化は最重要のもの。
- ・名瀬市街地部を中心に課題と指摘される「地域からの孤立化」は、子育て・医療・福祉・健康の様々な面に影響を及ぼすもの。
- ・市民も行政も、様々な分野において今まで以上にコミュニケーションを取りながら、政策を進めたいと感じているが、その機会は十分に確保されていない。

3. 長期的な政策の方向

(1) 本市が目指す将来像（次世代に受け継ぎたい本市の姿）

別紙参考

(2) 長期的な政策の方向

本市が目指す将来像実現のためには、本市の有する特徴を活かしながら、様々な課題解決に取り組む必要がある。そのためには、住民一人ひとりの行動、企業活動、行政の取組はもとより、官民が連携・協働して取組を進めなくてはならない。

地域や離島にとっての「課題解決の先進モデル」となるべく、長期的な政策の方向として、以下の3つの柱を示す。

① 市民の生活満足度の向上

- ・ 現在、本市に住んでいる市民の生活満足度が向上することを最も重要視する。「職」や「住」、「安心できる生活環境（子育て支援・医療・介護・福祉等）」などをよりよくする取組は、ひいては移住を検討する方々にとっての魅力となる。
- ・ 安心・安全の基礎となる生活環境や防災体制、子育て支援などの福祉環境においては、名瀬・住用・笠利の3地域における均衡のとれた環境を整えるとともに、それぞれに異なる魅力・課題を有する3地域の特性をもった取組を推進する。
- ・ 本市のみならず、奄美大島や奄美群島における共通した課題解決に向けては、国や県、関係町村はもちろんのこと、民間企業や学術機関、団体など様々な関係者との連携により取り組む。

② 活発な市民活動・経済活動

- ・ 奄美群島全体の振興方策を示す「奄美群島成長戦略ビジョン2033」にも示されている「民間企業が奄美群島の自立的発展の主体的役割の担い手」であり、「行政の役割は民間企業への積極的な支援」とする考え方は本市においても重要。
- ・ 世界自然遺産として認められた自然環境や、その自然とともに受け継がれてきた環境文化など、本市が有する特徴を誇りとし、国内のみならず国外も視野に入れて奄美市の魅力を発信する。
- ・ 市民ニーズが多様化する中、社会課題の解決に向けても行政のみでは対応が難しくなっており、官民連携の重要性が増している。そのためにも、市民と行政の対話・コミュニケーションについて、これまで以上に機会創出が必要。
- ・ 行政においても、限られた財政及び体制において持続的運営を保持するため、現状の事業・計画を固定化することなく、社会動向等に応じた計画の見直しを積極的に行う。

③ 次世代への「誇り」の継承

- ・本市が有する特徴的な文化・伝統は、集落・地域の中にある。新型コロナウイルス感染症による空白期間を乗り越え、本市における世代間交流の根幹である地域活動の再活性化が求められる。
- ・将来を担う子どもたちに対しては、世代を問わず地域文化にふれるとともに、地域の中で活動する機会を創出していく。
- ・本市の特徴ある文化は、その形ばかりでなく、それぞれの背景や意味・想いをともに受け継いでいく。

(3) 長期的な取組を図る指標（全体指標）

～継続して検討中の項目～

IV 短中期的な重点施策の方向

～継続して検討中の項目～